

ふるさと

郷

ふるさと
うさぎ追いかの山
こぶなつりしかの川
夢は今もめぐりて
忘れがたき ふるさと

いかにいます父母
つつがなぎや友がき
雨に風につけても
思いいずる ふるさと
こころざしをはたして
いつの日にか帰らん
山はあおきふるさと
水は清き ふるさと

高野辰之 詞
岡野貞一 曲

ほとんどの方がこの「ふるさと」を歌ったことがあるでしょう。

子どもの頃の野山の風景を遠い地から懐かしむ心情を歌ったものです。

生まれ育った故郷を誇りに思い、懐かしみ、多くの友と故郷の良さを語り合つことは、ごく自然なことです。

しかし、私（筆者）は20年前、水俣・芦北地区で仕事をしていた時、「故郷を語れない人がいた」と聞いたことがあります。

水俣病の原因がまだはっきりしなかつた頃、水俣病は伝染するという誤解から様々なやがらせをするなど厳しい差別があつた、水俣出身であるために結婚や就職が断られた、さらには、偏見や差別により故郷を水俣と語れない、などの水俣病に対する偏見や差別の実態を聞きました。

「偏見や差別のために自分の生まれ育った故郷を語れない」という苦しみは想像を絶します。水俣病は、原因企業チソから排出されたメチル水銀化合物による中毒性の神経疾患です。

現在は、住民や行政、関係機関の努力によりその発生原因が明らかにされ、同じ過ちを繰り返さないために、広く啓発がなされ、水俣病に対する理解が深まってきました。

偏見や差別をなくすには

生活の中で「知らない」ということが、時として偏見や差別に繋がる場合があります。

水俣病に対する無知や誤解から、患者やその家族、さらに水俣地域の人々はいへんつらい思いをしました。私たちは正しい知識を持ち、被害を受

けた人の立場に立つて考えることが大切です。

水俣に生まれたから、ある地域に生まれたから、そこに住んでいるからという理由だけで、人権が侵害され、心に傷を受けたり、不利益を被ったりするようなことは、決してあってはならないことです。

益城町では、身の回りのできごとを人権という視点で考え行動し、差別のない明るく住みよい町をつくるために、益城町人権フェスティバルや広報「ましき」人権シリーズで話題を提供し、人権啓発に力を入れていきます。このような機会を活用して人権についての理解を深めたいものです。

また、自分の郷土に誇りを持ち、自分の生まれ育った地域のすばらしさを子どもたちに伝え、地域の催しに積極的に参加したりする取り組みも進めています。

自分の郷土を心から誇りに思う人は他の人の郷土にも心から敬意を払います。このよつな行動を一步一步積み重ね、「誰もが自分の故郷を語れる」世の中にしていきたいものです。

益城町教育委員会

ふるさとの地名郷歩

歴史の変遷と地名

301

谷川に左の目八幡宮があります。肥後国誌の沼山津手永福原村の項に「八幡宮」とありこれかと思われます。ここには左の目を扶け人相を変え源氏の兵の目から逃れる平景清伝説（松野國策著・ましきの民話）があり、眼病の神として敬慕されますが、八幡宮の祭神は応神天皇が主神なので景清伝説は後世に付会されたものです。阿蘇郡波野村（現阿蘇市）遊雀にも今度は右の目を扶ける景清伝説の生目八幡宮があり、こも眼病の神です。また生目神社は植木町・三角町・菊水町（現和水町）・大津町・高森町・菊陽町・山鹿市・玉名市・水俣市にあります。

謡曲「景清」では盲目の景清が宮崎で「日向公当」と名乗りますが、この父を訪ねて、遥々と鎌倉から下った娘の「人丸」が互いを慮り底い合い名乗らずに別れる悲しい筋書きです。

宮崎市の生目神社にも目の神として景清伝説があり「景清廟」など各所に景清伝承があります。①日向に下り宮崎で三百町を領し建保二年（一二一四）八月十五日六十二歳で死去（日向地誌）②頼朝を仇

と狙い捕らえられ、建久七年（一一九六）三月十三日絶食して鎌倉で死去（広文庫）③霧島連山の御池に身を投じたなどその他の伝説があります。次の古文書は砥川の豊田文書の中の往来手形で、生目八幡宮信仰が肥後にあつた証拠です。

「細川越中守足輕・豊田梶右衛門、上下式人日向之國生目八幡宮江（へ）参詣仕候際（仕り候際）往来無異議（異議なく）御通可被下（下さるべく）候以上

細川越中守内
横田善右衛門 花押
安政四年（一八五七）二月
所々御改所」



たくさんの人々の尊敬を受けた左の目宮

益城町文化財を訪ねる会
会長 松野國策